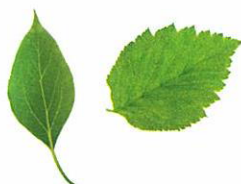


3 年次有給休暇の計画的付与制度はさまざまな時季に活用できます。

① 夏季、年末年始に年次有給休暇を計画的に付与し、大型連休とします。

わが国では、盆（8月）、暮（年末年始）に休暇を設けるケースが多く、これらの休暇に計画的付与の年次有給休暇を組み合わせることで、大型連休とすることができます。

この方法は、企業もしくは事業場全体の休業による一斉付与方式、班・グループ別の交替制付与方式に多く活用されています。



カレンダーの例



● は所定休日 ■ は年次有給休暇の計画的付与

② ブリッジホリデーとして3連休、4連休を設けます。

暦の関係で休日が飛び石となっている場合に、休日の橋渡し（ブリッジ）として計画的取得制度を活用し、連休とすることができます。例えば、土曜日と日曜日を休日とする事業場で祝日が火曜日にある場合、月曜日に年次有給休暇を計画的に付与すると、その前の土曜日、日曜日の休日と合わせて4連休とすることができます。また、ゴールデンウィークについても、祝日と土曜日、日曜日の合間に年次有給休暇を計画的に付与することで、10日前後の連続休暇を実現できます。

このように、ブリッジホリデーとして休日が飛び石となっている合間に年次有給休暇を取得させることは、事前に年単位で休日、休暇の計画を立てることを可能にします。

この方法は、企業もしくは事業場全体の休業による一斉付与方式、班・グループ別の交替制付与方式に多く活用されています。



カレンダーの例



● は所定休日 ■ は年次有給休暇の計画的付与

③アニバーサリー（メモリアル）休暇制度を設けます。

休暇の取得に対する職場の理解を得やすくするため、従業員本人の誕生日や結婚記念日、子供の誕生日などを「アニバーサリー（メモリアル）休暇」とし、年次有給休暇の取得を促進することができます。こうした誕生日や記念日はあらかじめ日にちが確定しているため、年次有給休暇の計画的付与を実施しやすくなっています。

この方法は、年次有給休暇付与計画表による個人別付与方式に活用されています。



大手スーパーA社では、年次有給休暇の計画的付与制度（6日）を活用して「アニバーサリー休暇」と「多目的休暇」を設けています。従業員一人ひとりの年次有給休暇のうちの6日間について、次のような形で年度始めに計画を立てるように奨励しています。

名称	日数	内容
アニバーサリー休暇	3日	誕生日、結婚記念日等を含む連続3日間
多目的休暇	3日	自由に設定する

④閑散期に年次有給休暇の計画的付与日を設定、休暇の取得を促進します。

業務の比較的閑散な時期に年次有給休暇を計画的に付与することです。年間を通じて業務の繁閑が定期的にある場合には、閑散な時期に計画的付与を実施することによって、業務に支障をきたさないで年次有給休暇の取得率を向上させることができます。

電気機械器具メーカーB社では、閑散期である1～2月の土曜日（4日間）を計画的付与日に指定し、実質的な労働日数を減少させています。



4 年次有給休暇の計画的付与制度の導入に必要な手続きとは？

年次有給休暇の計画的付与制度の導入には、就業規則による規定と労使協定の締結が必要になります。

(1) 就業規則による規定

年次有給休暇の計画的付与制度を導入する場合には、まず、就業規則に「5日を超えて付与した年次有給休暇については、従業員の過半数を代表する者との間に協定を締結したときは、その労使協定に定める時季に計画的に取得させることとする」などのように定めることが必要です。